

## ＜「英会話力」と「英文ライティングスキル」との関係は？＞

千村 年彦 【ソニー（株）OB】シニア英文ライティング コンシェルジュ

参考書籍：＜英文Eメールが書けるようになろう！  
ビジネス英文のライティングスキル実践編＞

著者： 千村 年彦

※【アマゾン】 <https://www.amazon.co.jp/dp/4990912144>

※【Books 出版書誌データベース】

<https://www.books.or.jp/book-details/9784990912147>

日本人は平均して「英会話力」の強くない人が多い！ 「英会話力」とは？

■近年の早期を含めての英語教育では「聞く」、「話す」に重点が移っている。

■実際に、小学校から会話をを行う授業が増えている。

■英会話がうまくなるために、「会話の練習」をするのは理に敵っているように思える。しかし、そこには「矛盾」、「無理」があり、「落とし穴」がある。

■「英会話のスキル」とは、「正しい文章をすらすら話す能力」のこと。

※ここでの「英会話のスキル」とは、「海外ビジネス等で求められるレベル」のスキルを対象とする。

■「正しい文章」とは、下記「四つの能力」の組み合わせから構成される。

- (1) 自分が言いたい内容を即座に思いつく能力
- (2) 文法的に正しい文章を創る（作る）能力
- (3) 文章を正しく発音する能力（各単語のアクセントも含めて）
- (4) リスニングの能力

■これら「四つの能力」が総合的にどのようなレベルでバランスが取れているかにより、「英会話力」が一般的に評価される。

## &lt;これら「四つの能力」とは?&gt;

## (1) 自分が言いたい内容を即座に思いつく能力とは?

■【(1) 自分が言いたい内容を即座に思いつく能力】とは 語学力以前の問題で、いわゆる「コミュニケーション能力」の一部であり、日本語を話し始めた小さい頃から永年に亘り、知識と経験を積み上げていく中で、意識して鍛えていくもの。

■話したい内容を適切な言葉で表現できるかは「日本語の語学力（国語力）」の問題。 話したい内容が思いつかないのであれば、いくら「会話の練習」をしても意味がありません。

■話したい内容について、情報収集して下調べをするなり、また 主張や議論等に関する事であれば、「ものごとの本質」を見極め、理路整然とした説得力のある「論理的思考」(Logical thinking) ができることが求められます。 これらは、海外ビジネス運営等の実務を含めて、いろいろな知識・経験を積み、これらが自然にできるような能力を鍛えておくことが必須となります。 やみくもに会話をしても、この能力が磨かれるものではありません。

## (2) 文法的に正しい文章を創る（作る）能力とは?

■【(2) 文法的に正しい文章を創る（作る）能力】は、「作文の能力」のことで、筆記・口頭、および頭の中にて実行する「作文の練習」で身につける能力です。

■会話で瞬間的に作文ができるようになるためには、ノートの上で、あるいは頭の中で、作文ができるようになっている必要があります。 そして、「文法的に正しい作文」を創る（作る）ためには勿論、「文法の知識」が必要になります。 これは、英文 E メールや議事録、および文書作成時にも共通事項です。

■「<筆記の作文・口頭の作文・頭の中での作文> + 文法」という練習を積み重ねて、「文法的に正しい文章」を創る（作る）能力が身につきます。 そして、この領域が「高度な英文ライティングスキル」を求めているのです。

■この領域でも「日本語の語学力（国語力）」が重要な要素となります。 つまり、「自分の考え・意見を持つ」こと、そしてそれを「的確な日本語で表現できること」が求められます。

■それは、「的確な日本語」で表現できないと「的確な英語」に翻訳・変換ができないことからも明らかです。  
機械翻訳デバイスを活用する上でも、「的確な日本語」がインプットされないと「的確な英語」のアウトプットとならず、どこか違和感のある変換となってしまいます。やみくもに会話をしても、この能力が磨かれることがありません。

### (3) 文章を正しく発音する能力（各単語のアクセントも含めて）とは？

■【（3）文章を正しく発音する能力（アクセントも含めて）】は、「実際に声を出して、各単語のアクセントも含めての発音練習」で身につける能力です。辞書の活用と共に、今の機械翻訳デバイスの中には、発音してくれるものもあるので、補完してくれるツールとして、有効に活用することができます。

■この「発音練習」は「会話の練習」としてやるのではなく、「発音にフォーカスした練習」として、しっかりとやるべきです。  
声を出して発音することにより、耳からも脳に記憶させると同時に、「発音・アクセントのチェック」を行うことが大事です。

■もし、先生等に聞いてもらえて、発音を修正してもらえるような環境であれば、理想的ではあるが、そうでなくとも上記のような「独自の方法」での学習効果は充分、得られるでしょう。

■「ライティングスキル」の向上にフォーカスしている人も、この「発音練習」を実施することにより、「ライティングスキル」だけでなく、「スピーキングスキル」も同時に向上させることができ、「会話力アップ」が実現できます。  
是非、同時達成の高い目標設定をして、チャレンジすることを推奨します。

### (4) リスニングの能力とは？

■【（4）リスニングの能力】は「発音練習」の中で、意識してやることによりかなり身につく能力です。これを有効に活用することは賢明なやり方です。

### ＜まとめ＞ 「英会話力」の実力アップへの対策は？

■ 海外ビジネス運営に代表されるような環境等で必要な「正しい文章をすらすら話す能力」としての「英会話力」について、以下のように要約できます。

■ 「コミュニケーション能力」／「日本語の語学力（国語力）」+「作文の能力」+「発音の能力」+「リスニングの能力」の総合バランスとなるよう、訓練する。

■ 日本人が海外ビジネス等を展開する時に、「英会話力が足りない！」と感じている多くの場合、「英会話の練習以前のところに問題がある」ようです。

■ したがって、「会話の定型パターンを習得する」ことを目指した「会話の練習」では、「正しい文章をすらすら話す能力としての英会話力」は身につきません。

■ 「英会話力アップ」を目指す上で、実際的な対策として考慮すべき項目は以下のように要約できます。

#### ※さらなる総合的な「コミュニケーション能力」を鍛える。

- 「コミュニケーション能力」とは、＜対人的なやりとりにおいて意思疎通、協調性、自己表現能力を含む複合的な能力で、相手との相互信頼関係を築くための重要なスキル＞と言われています。
- その中で特筆したい点は、何事においても「ものごとの本質」を見極め、基本的な考え方・方針がぶれないこと。そして、説得力のある「論理的思考」ができるように常に意識して、目指したスキルアップを達成させること。

#### ※日本語の語学力（国語力）を磨く。

- 「英会話力」の実力アップのためには、先ず「日本語（国語）」をさらに鍛えて、磨きをかけることが重要です。

#### ※英文ライティングスキルを向上させる。

- ビジネス英語を学ぶ多くの人達は、「英会話力」の実力アップにフォーカスして学んでいるケースが多く、「英文ライティングスキル」をあまり重要視していない傾向があるように思われます。しかし、実際には上記のように「文法的に正しい文章を創る（作る）」こと、つまり英文ライティングのスキルが総合的な「英会話力」のスキルアップに不可欠な要素の一つであることを理解して、研鑽することが重要です。